

コロナとともに生きる 広報げろ 2020.6

コロナとともに生きる

現在世界中で蔓延している新型コロナウイルス感染症は、人類が初めて経験するウイルスの感染症です。コロナウイルスには、一般の風邪の原因となるウイルスや、「重症急性呼吸器症候群（SARS）」や2012年以降発生している「中東呼吸器症候群（MERS）」ウイルスが含まれます。

ウイルスは人や動物、植物に感染し、様々な病気を引き起こします。人で引き起こされる病気には、インフルエンザなどの呼吸器疾患、肝炎や、胃腸炎などの消化器疾患、小児まひや髄膜炎などの神経系疾患、発疹、いぼ、乳頭腫、带状疱疹などの皮膚疾患、肝がん、子宮頸がんなどの悪性疾患など、様々なものがあります

ウイルス（RNA ウィルス）のはじまりは生物発生の起源にさかのぼるようですが、ウイルスは生きた細胞に侵入してのみ増えていくことが出来る（複製）感染性微生物です。

人類は今まで様々なウイルスに遭遇し多くの犠牲を払いながらも、治療薬やワクチンの開発、予防法の確立などによって克服してきました。しかし、これらのウイルスの多くは現在抑え込まれているだけで、世界のどこかで活動しており、油断するとまた再燃してきます。麻疹や風疹がそのよい例でしょう。

ウイルスは生きた細胞の中でコピーされ増えていきますが、その経過中変異しやすく、何度も感染したり、既存の治療が効かなかったりするようになります。新型コロナウイルスも変異しやすいウイルスで今後の治療法の開発に影響すると考えられます。

新型コロナウイルス感染症は確実な治療法がまだ分かっていません。今までの疫学的研究から、移らない、移さないためには、**手洗い、マスク、家で過ごそう（STAY HOME）、人と物理的に距離を保つ（オンラインの活用、通販の利用）、三密の排除**という経験的な方法しかない状態です。ウイルスは人から人へ移るという特性を持っていることだけははっきりしているのですから。

ワクチンや治療薬はまだなくて、ファビピラビル（アビガン）、レムデシビルなどが試験的に使われていますが確実な効果は期待できていません。因みに薬剤名の最後の『ビル』とはウイルスに作用する薬物という意味です。（5月6日現在）

今後、新型コロナウイルス感染症を抑え込むためには、今までの経済活動を続けることは困難ではないでしょうか。現在における最も有効な解決策はPCRなど検査を駆使して感染者の発見、隔離を徹底することと考えます。無症状の感染者を放置したままでの、経済活動の継続、学校などの再開は、高齢者への感染を増大させ、医療の崩壊、社会の崩壊へと進むことになるでしょう。

想定外の事が続発しているこの四半世紀。経済活動を優先し、保健、医療対策を縮小してきた日本の政策は、社会に未曾有の大打撃を与え、さらなる経済の落ち込みが懸念されます。ウイルスという太古から存在し、姿を変えて現れる微生物に対抗するためには、今までの生活を大きく変える必要があるでしょう。 下呂市立金山病院 顧問 古田智彦